

北広島ふるさと夢プロジェクト 便り

平成29年
11月17日

北広島町内小学校

夢と感動の体験!! 今年も自作のロケットが、曇天の北広島の空へ!!

10月19日(木)に、町内の6年生(167名)を対象にした、「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」という“北広島ふるさと夢プロジェクト”が、千代田運動公園で実施されました。



【小6 ふるさと夢プロジェクトのねらい】

- 植松先生の講演を通して、夢を持ち実現することのすばらしさを学ぶ。
- ロケットを作り発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。
- 町内の小6児童が共通の体験をすることで、町内の児童間の親睦を図る。

ロケット発射



北海道の植松電機(代表取締役)の植松努先生を迎えてのこの事業は、今年で3年連続となります。自分でモデルロケットを作り、打ち上げるといふ“夢と感動”のあるこの事業は、過去実施した6年生に大好評です。

植松先生は、テレビ等で話題となった『リアル下町ロケット』のモデルの人物として、超多忙な日々を過ごされていることから、北海道以外でのモデルロケット作りの指導を控えておられます。

そんな中、本町で進めている「将来のふるさとを担う人材を育てる」という、この事業の趣旨に強く共感され、今年も特別にお出でいただくこととなりました。小雨も時折降る天気ではありませんでしたが、夢と感動の1日となった児童の活動の様子について紹介します。

ハラハラ・ドキドキのロケットの打ち上げ。「3, 2, 1, 発射」の合図で、次々と打ち上げられるロケットに、大歓声が沸き上がりました。発射ボタンを押すとロケットエンジン(火薬)に火がつき、0.3秒で時速200kmを突破し高さ100mに届きます。子供たちは目を輝かせながら自分のロケットの軌跡を追っていました。基本的には宇宙へ打ち上げられるものと同様のロケットを作り、打ち上げを成功させたという夢と感動の体験を、参加児童のみんなで共有しました。忘れられない思い出になることでしょう。

ロケット製作



説明書を黙々と読みながら作り始めたロケット作り。緊張していた児童も、次第に打ち解けて他校の友達と協力する姿が多く見かけられるようになりました。ロケットが形になるにつれ、笑顔も多くなり、学校を越えた友達の輪を広げることができました。



植松努先生講演会 演題「思うは招く～夢があれば、なんでもできる～」

植松先生は、小さい頃からの夢を実現するために、ロケット製作とは関係のない小さな会社で夢と希望を持ってロケット作りを始められ、その後、幾多の困難を乗り越えられ、偉業ともいえる宇宙を飛びロケット開発を成し遂げられました。自分の半生を振り返って、笑いあり感動あり、そして人としての生き方について考えさせられる、楽しく分かりやすい心に残る話をされました。



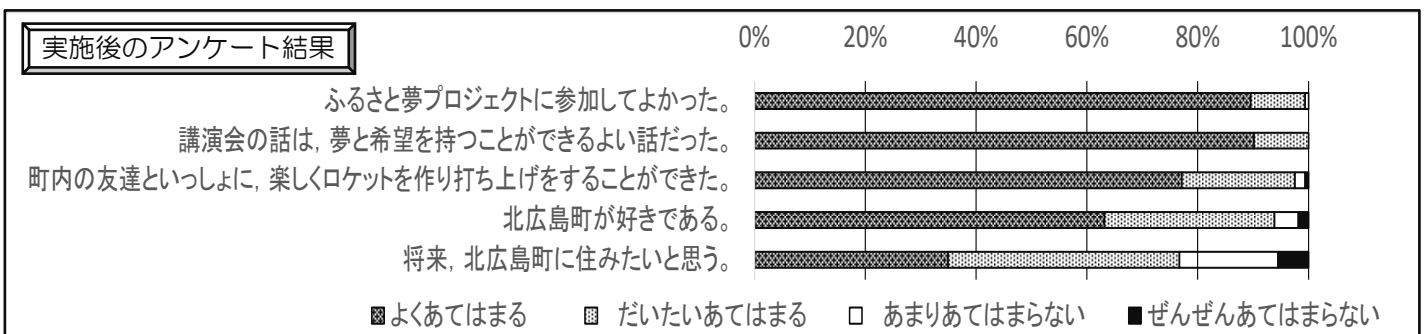
言われた通りにすればできる仕事は、全部ロボットがするようになってきている。今世界で求められる人は、やったことがないことをやりたがる人、あきらめない人、工夫をする人である。

私には、「人の自信と可能性が奪われない社会を創りたい。」という夢がある。みんなが仲間になってくれるとうれしい。「どうせ無理。」という言葉を目にしたら、「だったらこうしたら？」と力を貸せる人になってほしい。夢を大切に持ち続けてほしい。

みんなも会社の社長になれる。社長になるためのコツは簡単。いやなことがあっても、我慢をしたり、あきらめたり、愚痴を言ったり、無視したりしないことが大切である。いやだと言っても何も変わらない。何でいやかなのかを考えること、そうすると人を助ける発明になる。どんどんやったことがないことに挑戦する人になってほしい。

参加した児童は、「参加してよかった→99.4%」「講演は夢と希望を持つことができるよい話だった→100%」「町内の友達と楽しくロケット作り・打ち上げをすることができた→97.5%」という思いを持っています。非常に高い満足度でした。まさに、夢と感動の体験をすることができました。

また、「北広島町が好き→93.9%」「将来、北広島町に住みたい→76.7%」という回答がありました。着実に、ふるさとへの愛着心が育っていると見える状況です。



【参加した児童の感想（心に残ったこと）】

- ◆植松先生の話聞いて、「失敗してもだめじゃない、だからこうしてみよう」と、前向きな考えになろうと思います。
- ◆講演会のお話を聞いて、「失敗をおそれずにチャレンジする」「自信を持つ」ということが、どれだけ大切なのかということが分かりました。ためになったなと思います。植松先生のおかげで夢をもつことができました。
- ◆植松先生のお話を聞いて、自分の中のもやもやしていたものが軽くなった気がしました。夢が何なのか何のためにあるのかよく分かりました。「だったらこうしてみたら？」という考えが大切だなと感じました。
- ◆植松先生の話聞いて、すごく印象に残った言葉があります。それは「不安の向こうに喜びがある。」です。人生不安なことだらけだけど、その向こうには、必ず喜びがあるということを知り、参加してよかったと思いました。
- ◆他校の人と交流してロケット作りをしたとき、分からないときお互いに助け合えてよかったと思いました。打ち上げでは、自分の作ったロケットが高く飛んでいく所を見てうれしかったです。
- ◆あんなに高く飛ぶとは思いませんでした。自分で作ったロケットが空高く飛んでいくことがとてもすごいことなんだと思いました。楽しかったです。
- ◆ぼくの知らない他の学校の友達とのロケット作りなどを通して、楽しくお話ができるまでになれたので、すごくよかったと思います。

プロジェクトを企画・実施していただいた北広島町・北広島町教育委員会、会場の千代田運動公園、また諸準備や片付けをしていただきました多くの皆さんに、心より感謝申し上げます。